

2003年7月30日
電気化学工業株式会社

バイオマスボイラー運転開始、循環型社会へ貢献

当社青海工場（新潟県西頸城郡青海町）のセメント部門では、木屑（建設廃材）および廃プラスチックを燃焼させて発電を行う「バイオマスボイラー」の商業運転を本年3月より開始しました。

これは、近年の廃棄物関係法令の改正等による産業廃棄物である木屑や廃プラスチックの処理要請の増加に応え、これら産業廃棄物を受け入れてバイオマスボイラーの燃料として燃焼し、発生蒸気を既設のセメント工場の廃熱発電設備に送り込み発電量を増加させるものです。

建設にあたっては、NEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）からの補助金を受け、また既設の廃熱発電設備の発電余力を利用することで、建設コストを低減化しました。

3,000kWの発生電力は、青海工場内の自家発電を主体とした電力系統に組み込まれ、場内の有効電力として経済効果を上げています。また、発生する燃焼灰は通常は二次産業廃棄物となってしまいますが、これをセメント工場の原料として処理することで、全く産業廃棄物を発生させないクローズドシステムとなっており、セメント工場でしかできない処理形態となっています。

このバイオマスボイラーは、化石燃料を使用しないため、CO₂削減、資源枯渇、地球温暖化に貢献するばかりではなく、ダイオキシンの発生対策としてガス急冷を行っていることに加え、従来のバイオマスボイラーでは問題となっていた炉底に溜まる燃焼灰を自社技術により自動除去する設備を設置したことで、低公害型安定運転が可能となっております。

当社では、廃棄物・副産物資源化技術を最大限に活用することで、増加する各種廃棄物・副産物の受け入れ要請に対して積極的に取り組み、高まる循環型社会への貢献を果たしてまいります。



商業運転を開始した
バイオマスボイラー